

令和5年度
第2回 館林市「日本遺産」推進協議会
議案書



館林市「日本遺産」推進協議会

委員各位

早春の候、委員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より本協議会の運営に対しまして多大なるご理解ご指導を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、今年度第2回館林市「日本遺産」推進協議会におきまして、誠に勝手ではございますが、一堂に会しての開催は見送り、例年同様、書面での開催とさせていただきます。

なお、書面にて失礼ではございますが、ご挨拶といたしまして館林市「日本遺産」推進協議会の今年度の取組みにつきまして、簡単にご紹介させていただきます。

まず、人材育成・普及啓発事業といたしまして、2月18日(日)アゼリアホール(館林市内商業施設アゼリアモール内)を会場に両毛3市日本遺産こどもサミット『好きです！日本遺産のあるわたしたちのふるさと』を開催いたしました。両毛3市日本遺産認定地で実際に活躍されているこどもたちに活動内容や取組を発表していただきました。こどもサミットをきっかけに両毛3市の未来を担うこどもたちの交流が生まれ、今後も日本遺産事業を持続的に推進していくための良い機会を設けられたと思います。YouTubeでアーカイブ配信を実施しておりますので、ぜひご覧ください。

また、認定当初から市内小・中学校総合学習において「里沼」を題材とした授業を実施してきておりますが、今年度は新たな取組みとして、市内小・中学生に日本遺産「里沼」献立を提供いたしました。4月は“守りの沼”・城沼、5月は“祈りの沼”・茂林寺沼、6月は“実りの沼”・多々良沼をイメージしたメニューを考案し、「里沼」ならではの味覚をお楽しみいただきました。その結果、昨年12月に市内小・中学生を対象に実施した「里沼」認知度調査では、91.85%(前年87.29%、前年比+4.56%)という前年度を上回る数値を記録しました。わずか4年半の間に、館林市内のこどもたちに広く日本遺産「里沼」が浸透していることがわかります。同時に、こどもたちにとって地域のアイデンティティ＝「里沼」ということが着実に認識されつつあります。引続き次年度も未来の館林市を担うこどもたちへ積極的な「里沼」の普及を図ってまいります。

次に、情報発信事業といたしまして、昨年11月に東京都八王子市で開催されました「日本遺産フェスティバルin桑都・八王子」や先月有楽町駅前広場にて開催されました「日本遺産の日イベント2024」において、市外の方にも「里沼」をPRしてまいりました。特に、「日本遺産フェスティバルin桑都・八王子」では、群馬県立大泉高等学校や渡良瀬くらぶによるワークショップブース出展など行政だけでなく民間活動者にもご協力いただきました。私も現地を訪問し、高校生たちが先頭に立って「里沼」をPRする姿に大変心強さを感じました。

最後に、文化庁日本遺産制度では、令和3年度より認定6年経過後に地域活性化の度合いを測り、認定継続の可否を審査する『総括評価・継続審査制度』が導入されました。館林市においては、令和7年度に総括評価・継続審査が予定されております。総括評価・継続審査はもとより、地域活性化の更なる強化に向け、私自身が一層リーダーシップを発揮し、引続き地域の宝「里沼」を活かしたまちづくりを推進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、今後皆様の益々のご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

令和6年3月吉日

館林市「日本遺産」推進協議会
会長 多田 善洋

令和5年度第2回館林市「日本遺産」推進協議会議案について

このことについて、下記のとおり事務局案を上程いたしますので、ご審議の程、よろしくお願
いいたします。

記

1 議案第1号 令和6年度事業計画（案）について 【P.3～6】

日本遺産認定6年目にあたる令和6年度についても認定申請時に文化庁へ提出した地域活性化計画（6年間）の最終年度として、年間を通じて日本遺産「里沼」を活かした各事業に取り組みます。なお、文化庁補助金については令和3年度で交付が終了したため、令和4年度以降の各事業は、市補助事業として実施します。（市補助金の一部はふるさと納税(個人版・企業版含む)等寄附金を充当しております。）

事業の詳細は、令和6年度事業概要（事業費の内訳）のとおりです。

また、毎年出展している日本遺産フェスティバルや文化庁主催の日本遺産の日イベントにも継続して参加するとともに、行政だけでなく民間活動者にもご協力いただきながら一体となって「里沼」のPRに取り組みます。

総括評価・継続審査も見据えながら、より効果的な事業の展開に努めてまいります。

2 議案第2号 令和6年度収支予算（案）について 【P.7】

議案第1号の事業計画（案）に基づき、令和6年度収支予算を総額13,001千円で編成しています。

収入の部のうち、補助金については、市補助金として13,000千円を計上しております。

支出の部は、事業費13,000千円を計上し、その内訳については、令和6年度事業概要（事業費の内訳）のとおりです。事務費1,000千円については、推進協議会及びヌマベーション連絡協議会に係る会議経費、日本遺産連盟負担金等に係る費用を計上しています。

なお、市補助金につきまして、令和5年度～令和7年度の3か年は信金中央金庫からの寄附金(総額1,000万円)が充当される予定であります。

3 報告事項その1 日本遺産「里沼」事業の近況報告について 【P.8～10】

令和元年の文化庁「日本遺産」認定からまもなく5年を迎え、6年間の地域活性化の取り組みも残すところあと1年となりました。

認定から現在までの事業展開や地域活性化の進捗状況(目標に対する成果)等の近況についてご報告いたします。

4 報告事項その2 令和7年度日本遺産総括評価・継続審査制度について 【P.11】

文化庁日本遺産制度では、令和3年度より認定6年経過後に地域活性化の度合いを測り、認定継続の可否を審査する『総括評価・継続審査制度』が導入されました。

館林市においては、令和7年度に総括評価・継続審査が予定されております。

制度の概要や総括評価・継続審査へのプロセス等、先進地視察によるヒアリング結果を踏まえ、現段階で把握している内容をご報告いたします。

議案第1号

令和6年度事業計画（案）について

期日	事業内容	備考
4月1日 ～3月31日	各事業実施 ・人材育成事業 ・普及啓発事業 ・情報発信事業 ・活用整備事業 「里沼」講座・ワークショップ実施(民間活動者と連携) 各種イベント等によるPRブース出展	別紙「令和6年度事業概要（事業費の内訳）」のとおり
6月	第1回館林市「日本遺産」推進協議会 ・令和5年度事業報告について ・令和5年度収支決算報告について	館林市文化会館
10月	日本遺産フェスティバルin極上の会津 ・PRブース出展及びワークショップ	福島県会津若松市
1月	※令和7年度日本遺産総括評価・継続審査に向けた書類作成	1月～3月
2月	日本遺産の日イベント2025 ・PR及び物販ブース出展 日本遺産「里沼」セミナー ・沼を活かしたまちづくりを担うプレイヤー育成のための講座開催 両毛3市日本遺産シンポジウム	東京都千代田区 館林市文化会館 桐生市
3月	第2回館林市「日本遺産」推進協議会 ・令和7年度事業計画（案）について ・令和7年度収支予算（案）について ※令和7年度日本遺産総括評価・継続審査書類提出 4月:書類審査、5月-6月:現地視察、7月:審査結果公表	書面による開催

※先進地視察等によるヒアリング結果を踏まえた想定(参考)

令和6年度 事業概要（事業費の内訳）

■歴史文化部会

9,300 千円

(1) 「里沼」ランドナビゲーター育成支援事業【人材育成事業：文化振興課】

[概要]

500 千円

既存ガイド団体等と連携しながら日本遺産「里沼」の魅力を発信し、館林市内観光を総合的にプロデュースする人材として育成する事業。令和元年度でインバウンドに焦点を当てたガイド育成講座、令和2年度は里沼ランドナビゲーター育成講座(応用編)・里沼ガイド講習会(茂林寺沼編)、令和3年度は英語ガイド講習会を実施した。令和5・6年度にかけて日本遺産「里沼」を支えるランドナビゲーターとなる人材を発掘・育成するためのステップアップ講座を開催。(令和5年度は「里沼」構成文化財(善導寺・善長寺・尾曳稻荷神社)にて全3回開催)

観光分野の専門家及び民間事業者とともに他地域視察等も実施予定。

また、ランドナビゲーター間及びランドナビゲーターと民間事業者間におけるパイプ構築によりもてなしの方法(ナビゲート等)のスキルアップにも取り組むものとする。

(2) 館林市「日本遺産」地域プロデューサー活動支援事業【人材育成事業：文化振興課】

[概要]

1,000 千円

館林市「日本遺産」地域プロデューサーの活動を支援し、情報発信・地域活性化・人材育成・観光・地場産業・歴史文化・地域特色(里沼)における分野の事業展開を促進する。令和元年度の策定した全体計画に基づき、令和2年度以降各分野での事業展開を図りながら、地域住民が館林市「日本遺産」に係る各事業に参加しやすい環境を整える。令和6年度の具体的事業としては、(1)高校生・大学生をターゲットにした「里沼」体感講座による次世代の担い手発掘・育成、(2)中学生による英語での日本遺産の解説作成(中学生海外派遣事業)の関連として、中学生に館林市「里沼」を紹介する平易な英文を考えてもらい、ガイドの様子をYouTube等で発信)、(3)「里沼」構成文化財案内動画を制作しYouTubeにて公開、(4)「里沼」のヨシなどを活用した商品造成・ワークショッププログラムの構築を行う。また構成文化財解説動画作成等によりWebを起点とする情報発信活動も実施しながら、各種メディアともリンクした柔軟な事業展開を図る。

(3) 官学連携「SATO-NUMA」事業【人材育成事業：文化振興課】

[概要]

500 千円

地元高校・大学(学生・留学生)と連携し、若者・外国人の意見を反映させながら、解説方法・内容をそれぞれの視点で検討するワークショップを開催する。当該ワークショップには地元活動者も参画し、館林市「里沼」の魅力を伝える担い手の充実を図る。

“祈りの沼”・茂林寺沼を拠点に活動する地元高校生や大学生等とともに茂林寺沼低地湿原の保護保全に関する取り組みを行いながら、活用面についても検討を進めることで人と「里沼」が作用しあう持続可能な体系の構築を図る。

また、地域事業者や大学生等と連携した「里沼」(当面は沼ごと)の周遊ツール創出の検討を行う。

(4) 館林市「日本遺産」展示会開催事業【普及啓発事業：文化振興課】

[概要]

1,000 千円

近隣・首都圏でのPR展示会[両毛地域、首都圏主要駅等]や館林市内巡回展[学校・公民館等公共施設]へも引続き積極的に出展し、市内外に向けた日本遺産「里沼」の普及啓発を行う。また、認定後5年経過し、「里沼」で活躍する人・団体にスポットを当てた展示会を開催することで、「里沼」に対する認知度及び愛着度向上・ストーリー浸透の強化を図る。各沼におけるストーリー普及を図るうえで拠点施設となるサテライト展示会場においても展示物の充実を図るとともにネイティブ目線での多言語化対応にも取り組む。

(5) 館林市「日本遺産」シンポジウム開催事業【普及啓発事業：文化振興課】

[概要]

1,300 千円

近隣認定自治体やストーリーに関連のある自治体と連携して令和元年度に日本遺産「里沼」シンポジウム、令和2年度以降両毛3市(桐生市・足利市・館林市)による日本遺産認定地連携シンポジウムを実施している。令和6年度も、引続き両毛3市連携によるシンポジウムを開催する。(会場:桐生市)

また、館林市単独でも日本遺産「里沼」セミナーを開催し、沼を活かしたまちづくりを担うプレイヤー育成へと繋げる。セミナー開催にあたっては、YouTubeによるライブ及びアーカイブ配信も行い、多くの人が見聴可能できるように配慮する。

《日本遺産「里沼」セミナー》

会場:館林市文化会館小ホール

参加者:100名予定

(6) 館林市「日本遺産」Webサイト開設事業【情報発信事業：文化振興課】

[概要]

500 千円

館林市「日本遺産」Webサイトを開設し、ストーリーや構成文化財の諸情報のほか、観光やアクセスマップ及び利便施設などの関連情報を公開し、国内外に向けての積極的なPRを行う事業。単なる開設に留まらず、動画配信や多言語対応化に重点を置くもの。特に来訪予定者の「旅マエ」での事前期待や動機付けの増大を目的とし、SNSとリンクしたサイトの整備を進める。また外国人来訪者のターゲット層を絞り込みながら、欧州「EUROPEAN ROUTE INDUSTRIAL HERITAGE」等のサイトを参考に、利用者目線での整備や素材集約に努める。令和6年度は、過去に積み上げてきた内容を継続・発展させ、各コンテンツの強化や画像・動画更新、取材記事導入による旅マエ誘客の充実、リピート増加のための旅アトコミュニケーションツール(わたしの里沼)の導入及びツールの磨き上げに取り組む。コミュニケーションツール導入に伴い、「里沼」事業に関するユニークなアイデアの募集や蘊蓄の蓄積など、市内外の多様な層の「里沼」への親近感や事業への参加意識・主体性の向上に繋げる。

(7) 館林市「日本遺産」案内板・サイン整備改修事業【活用整備事業：文化振興課】

[概要]

1,000 千円

来訪者の多いつつじが岡公園をはじめとする「里沼」全エリア(市全域)において、「里沼」ストーリー案内サインを設置。案内板デザインは大学・地元イラストレーター等と連携し進める。“祈りの沼”・茂林寺沼の玄関口となる東武鉄道「茂林寺前駅」の駅舎改修工事に合わせて、茂林寺駅前の「里沼」ストーリー普及及び現地誘導案内板を整備する。

また、つつじが岡公園をはじめとする里沼のもてなし文化エリア(館林駅東西口～つつじが岡公園区間)において、「里沼」誘導サインを設置する。

外国人来訪者の多い施設(駅周辺及びサテライト展示会場付近)の多言語化にも取り組む。

(8) 館林市まちじゅう「日本遺産」PR事業【活用整備事業：文化振興課】

[概要]

1,500 千円

「館林市まちじゅう『日本遺産』PR大作戦」と称し、市内商店街・大型商業店舗及び民間事業者等への幟旗・タペストリー・ステッカーを設置し「日本遺産」をPRするとともに、地域の一体感を醸成する事業。各媒体にQRコードを貼付し、クロスメディアによる来訪者の「いいね」や感想等による口コミ効果も狙う。また、経年劣化等による補充や新規協力団体への新規・追加配布により視覚的な連帯感も創出する。また、関東地域の日本遺産認定地と連携し、マイクロツーリズムを意識した効果的な「里沼」ストーリーの普及啓発を行う。公式WebサイトやX(旧Twitter)用ステッカーを作成することで、来訪者に対しリアルタイムでの情報提供に繋げる。

(9) 館林市「日本遺産」AR・Wi-Fi整備事業【活用整備事業：文化振興課】

[概要]

2,000 千円

各沼の拠点施設に設置したWi-Fi環境を維持するとともに、「日本遺産」ストーリー情報入手を目的として導入したARコンテンツ内容をより充実させ「里沼」ストーリーの理解促進を図る。ARアプリ機能を活用し、各沼の周遊性を高めるコンテンツの作成やフライヤー等によるコンテンツ周知を行う。事業開始以降、大学(東京電機大学)関係事業者と連携し過去5年間AR事業を実施してきた。令和6年度は、日本遺産認定後「里沼」掘り下げ調査等により蓄積した新たな情報のコンテンツ化を図ることで、利用者の満足度向上へと繋げる。

■観光産業部会

2,700 千円

(1) 館林市「日本遺産」パンフレット作成・多言語化事業【情報発信事業：つつじのまち観光課】

[概要]

2,700 千円

日本遺産認定以降作成を進めてきた「里沼」関連パンフレットについて過去の配布実績等を分析・精査したうえで、掲載内容を最新版に改訂し印刷を行う。公共施設をはじめサテライト展示会場、「里沼」構成文化財関連施設、商業施設などの集客施設にて十分に設置・配布することで、来訪者への「里沼」ストーリーの浸透及び周遊度・充実度向上に繋げる。

外国人来訪者(英語・繁体字・簡体字・タイ語・スペイン語圏)に対してもネイティブ目線での多言語化に取り組むことで、インバウンドも含めた観光誘客を促進及び満足度向上を図る。

また、市内在住イラストレーターと連携したイラスト周遊マップの印刷・発行を行う。

茂林寺沼・多々良沼・城沼などイラストによる周遊マップを発行し、幅広い来訪者を見込む。

令和6年度収支予算(案)について

【収入の部】

(単位：千円)

科目	本年度当初 予算額(A)	前年度当初 予算額(B)	比較増減額 (A)-(B)	備考
補助金	13,000	13,000	0	
国庫支出金	0	0	0	
市補助金	13,000	13,000	0	一部中央信用金庫からの寄附金充当
貸付金	0	0	0	
雑入	1	1	0	預金利子等
合計	13,001	13,001	0	

【支出の部】

(単位：千円)

科目	本年度当初 予算額(E)	前年度当初 予算額(F)	比較増減額 (E)-(F)	備考
事業費	12,000	12,000	0	別紙「令和6年度事業概要(事業費の内訳)」のとおり
人材育成事業	2,000	2,000	0	
普及啓発事業	2,300	3,000	△700	
調査研究事業	0	0	0	
情報発信事業	3,200	2,500	700	
活用整備事業	4,500	4,500	0	
その他事業	0	0	0	
事務費	1,000	1,000	0	報償費、旅費、通信費等
貸付金返還費	0	0	0	市貸付金返還
予備費	1	1	0	
合計	13,001	13,001	0	